

夢をかなえるために 学んだことを 自分の言葉で 語る子どもを育てる

学校教育目標

「夢もち たくましく」

心を磨き
知性を高め
身体を鍛え
共に生きん北広島市立
東部中学校

ひろがり

現状を受け止め、精一杯の生活ぶり ～コロナ禍での学校生活を通して～

東部中学校長 北村 安雄

今年度に入って、約4か月が経ちました。例年ならば、夏休みの真最中ですが、今学期は、新型コロナウイルスの緊急事態宣言に伴う臨休があったため、異例の一学期末となりました。

昨年度末も含めて、この半年間を振り返ってみますと、日本中、世界中が新型コロナウイルスの感染拡大による様々な影響と闘って参りました。とりわけ、医療や介護に従事されている皆様のご苦勞には、謹んで敬意と感謝を申し上げます。

一学期は、一か月半の臨休を挟み、6月から学校を再開しましたが、感染防止、安全対策のためにほとんどの学校行事は延期や中止にいたしました。新たな生活様式の中で、手探りの学校運営は今も続いております。生徒にとっては、楽しみな行事や部活動ができなくなり、戸惑いや落胆もあったと思いますが、東部中学校の生徒は、現状を受け止め、精一杯の生活ぶりを見せてくれました。

特に道徳の授業などを見ておきますと、様々なことを考える中で、他人の意見を尊重する姿や社会の規範や文化、伝統を重んじる姿勢が印象に残っています。また、先日、学校経営の重点に関わる生徒アンケートを行いました。その中でも、最も評価が高かった項目は、「思いやり」に関する項目でした。

これらの生徒の姿は、これまでの家庭や地域、学校生活の中で培われたものだと思います。コロナ禍では、先の見通しが持てなく、混乱を招きやすい状況にありますが、「他者を思いやる気持ち」や「規律を重んじる態度」は、非常に重要な要素です。これからも、そうした気持ちや態度を東部中学校の生徒の強みとして、将来の社会を生き抜く際に真価を発揮してほしいと願っております。



今年度は、10日間の夏休みを挟んで2学期が始まります。夏休みは、変化を余儀なくされて、戸惑った気持ちと体を整える期間にしてほしいと思います。そして、願わくば、2学期は、中学校ならではの活動を通して、「生徒の笑顔と輝き」が見られるよう祈るばかりです。

保護者、地域の皆様には、今後とも本校の教育活動に対しまして、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。